

第5章 基本方針と将来像

- 1 人吉球磨地域の地域公共交通に関する基本方針
- 2 人吉球磨地域が目指す地域公共交通の将来像

第5章 基本方針と将来像

1 人吉球磨地域の地域公共交通に関する基本方針

人吉球磨地域の地域公共交通に関する基本方針は、次のとおりとします。

地域に必要・利用してもらえる地域公共交通への再デザイン
-豪雨災害からの復興、地域の持続的発展の基盤として-

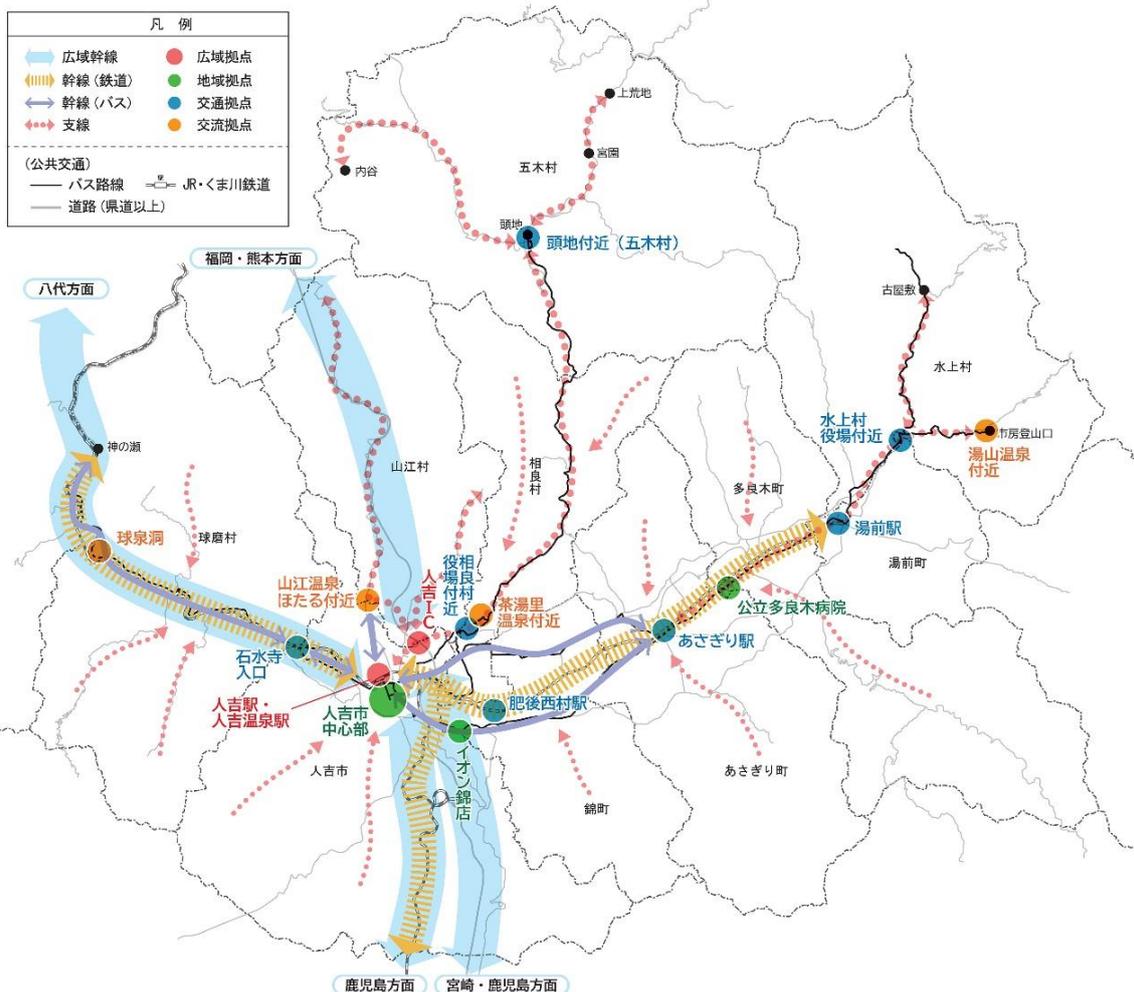
2 人吉球磨地域が目指す地域公共交通の将来像

人吉球磨地域の地域公共交通が目指す将来像は、次のとおりです。

- ① 地域の各拠点が地域公共交通ネットワークで結ばれた状態
- ② 地域公共交通体系が持続可能に再編された状態

① 地域の各拠点が地域公共交通ネットワークで結ばれた状態

豪雨災害からの復興、人吉球磨地域の住民の日常生活、地域外からの交流人口の移動などにあたり、地域内の様々な役割を持つ拠点が、幹線と支線の地域公共交通ネットワークで結ばれた状態を目指します。



【拠点の定義】

人吉球磨地域への玄関口となる「広域拠点」、人吉球磨地域内における日常生活等における「地域拠点」「交通拠点」、観光客などの交流人口が集まる「交流拠点」の4拠点を設定します。

なお、各市町村内における拠点の位置づけ及び整備については、各市町村において検討します。

表 拠点の考え方

拠点名	役割				位置づけ (配置方針)	求められる機能	拠点候補地
	経済活動	日常生活	交通結節	地域交流			
広域拠点	◎	○	◎	○	広域幹線、 幹線、支線	多様な交通手段が結節し、人吉球磨地域の玄関口となる拠点	人吉駅・人吉温泉駅、 人吉 IC
地域拠点	○	◎	○	○	幹線、支線	日常生活において人吉球磨地域全体から地域住民が集まる拠点	人吉市中心部(産交バス(株)人吉営業所、人吉医療センターなど)、球磨郡公立多良木病院、イオン錦店
交通拠点	○	○	◎	○	幹線相互、 幹線と支線 が結節	地域公共交通相互が結節し、乗り換え機能等を有する拠点	くま川鉄道駅(肥後西村駅、あさぎり駅、湯前駅)、石水寺入口、水上村役場付近、相良村役場付近、頭地付近
交流拠点	○	-	-	◎	支線	上記拠点以外で地域住民や観光客などの交流人口が集まる拠点	湯山温泉付近、茶湯里温泉付近、山江温泉ほたる付近、球泉洞

【地域公共交通ネットワークの定義】

地域公共交通ネットワークは、人吉球磨地域と地域外の移動を支える「広域幹線」、人吉球磨地域内の移動を支える「幹線(鉄道)」「幹線(バス)」「支線」を設定します。

表 交通ネットワークの考え方

路線名	果たすべき役割	主な利用者	交通手段
広域幹線	・人吉球磨地域と地域外の交流人口の移動を支えます。	観光客などの来訪者、 その他地域住民	JR九州肥薩線、 高速バス
幹線(鉄道)	・人吉球磨地域の骨格を形成。 ・市町村間を連絡するとともに、交流人口の移動を支えます。	高校生の通学者、 その他地域住民、 観光客などの来訪者	JR九州肥薩線、 くま川鉄道
幹線(バス)	・市町村間を連絡し、地域住民の日常生活の移動を支えます。	通勤・通学者、 高齢者をはじめとする交通弱者の買い物・通院などの利用	路線バス
支線	・市町村間の移動や地域内での移動を支え、幹線系統と連携し、一体的な地域公共交通体系を構築します。	高齢者をはじめとする交通弱者の買い物・通院などの利用	コミュニティバス、 乗合タクシー、 タクシー

②地域公共交通体系が持続可能に再編された状態

持続可能な地域公共交通の実現に向けて、現況（くま川鉄道部分運行）と将来（くま川鉄道全線開通時）の段階別に、地域公共交通体系を持続可能な体系に再編します。

なお、JR九州肥薩線においては、今後の復旧方針等を踏まえ検討します。

【現況（くま川鉄道部分運行）】

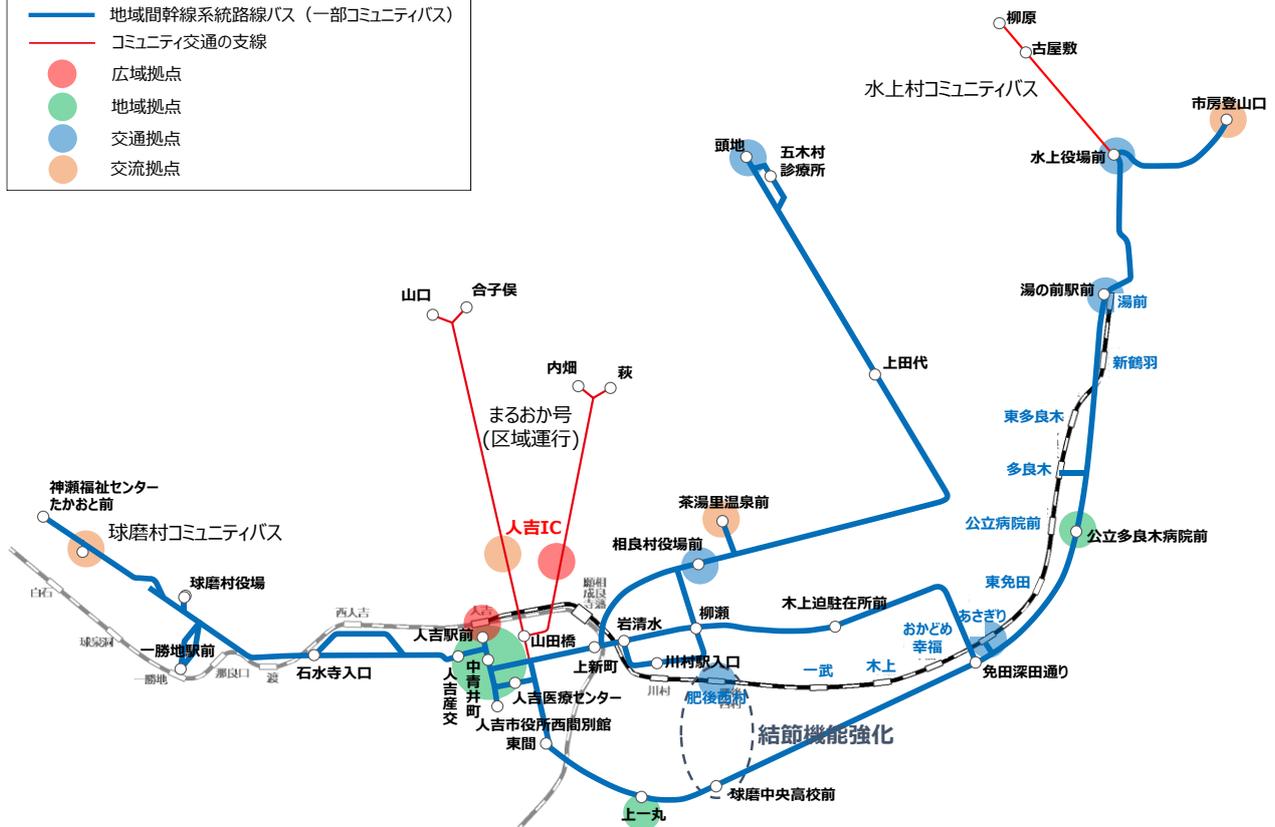
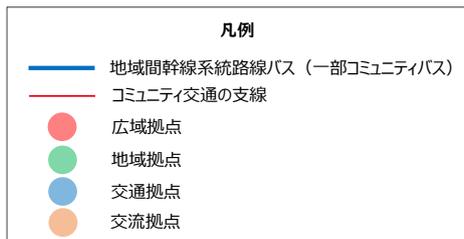
- ・くま川鉄道の部分運行時においては、くま川鉄道の運行本数が通常ダイヤよりも少ないことから、現在の地域公共交通体系を維持します。

- ・さらに、人吉温泉～肥後西村駅間が運休であることから、代替バスの運行を継続しつつ、くま川鉄道「肥後西村駅」と路線バス「球磨中央高校前バス停」の結節強化を図ります。

※肥後西村駅～球磨中央高校前バス停間の距離は約 700m、徒歩で 10 分程度。

例) 駅もしくはバス停における、乗り場案内（駅やバス停の位置と移動経路や距離・徒歩時間など）と時刻表の掲示など

【現況（くま川鉄道部分運行）】

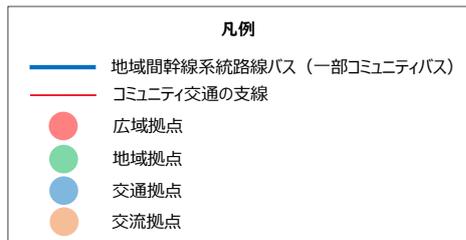


【将来(くま川鉄道全線開通時)】

- ・くま川鉄道の全線開通時を目途に、地域間幹線系統路線バスとくま川鉄道のサービス圏が重複する区間（あさぎり駅～湯前駅）、さらには五木線において地域間幹線系統路線バスをコミュニティ交通へ見直しを進めます。
- ・なお、コミュニティ交通への見直しにあたっては、今後、**沿線自治体（運行主体）が連携し、運行の担い手となる交通事業者の確保可能性等**も含め検討しますが、現在の地域間幹線系統路線バス**利用者の利便性低下とならないよう（特に、五木線においては人吉高校五木分校への通学対応確保）、運賃体系や地域間幹線系統路線バスとの運行ダイヤの接続等に十分留意**するとともに、地域の実情等に応じて柔軟な地域公共交通サービスの提供を図ります。
- ・併せて、**幹線系統と支線との連携や結節機能強化を図ることを目的**に、各市町村が運行するコミュニティバスや乗合タクシーなどの支線についても必要に応じて見直しを行います。
- ・さらには、地域間幹線系統路線バスの見直しやコミュニティ交通での対応など**人吉 IC への結節機能強化**を図ります。

例) 複数市町村が連携したバス事業者への運行委託によるコミュニティバスの運行、タクシー事業者への運行委託による乗合タクシーやデマンド型乗合タクシーなど

【将来(くま川鉄道全線開通時)】



※コミュニティ交通とは

コミュニティバスや乗合タクシーなどの路線バスに類する運行形態に加え、予約があった際に運行する**デマンド型の運行**、さらには**タクシーの活用**（タクシー利用助成など）や**スクールバスや企業・病院送迎など特定目的の旅客運送への混乗や合間運行での活用**、**自家用有償運送**（既存の公共交通事業者が存在しない交通不便地域）などが含まれます。

